

【加盟団体紹介】

## 秦野市体育協会

会長 遠藤 五夫

秦野市体育協会は、昭和20年代中期に結成された秦野町体育協会を始祖に、昭和27年の中郡体育協会を経て、昭和30年1月1日、秦野盆地内にあった中郡秦野町、南秦野町、東秦野村、北秦野村、大根村が合併して市制が布かれた秦野市の誕生から約3か月後の3月27日に、結成の発会式を行ない誕生しました。初代会長には栗原藤次（第5代秦野市長）が就任し、5支部、11競技部の加盟団体からの秦野のスポーツ史の新たな第一歩を踏み出すことになりました。

現在は、6地域支部・28競技部が加盟した組織にまで成長し、①加盟団体の育成、②主催事業並びに受託事業の実施、③各種スポーツ教室の開催・全国的なスポーツ大会の招致、④功労者・優秀選手等の表彰といった活動を、地域スポーツ・レクリエーションの振興、競技種目の発展向上という視点に立ち、秦野市中央運動公園（陸上競技場、野球場、庭球場、総合体育館）、スポーツ広場を拠点として精力的に行っております。

秦野のスポーツにおける歴史を辿ってみますと、明治に入り、様々なスポーツが西欧文化とともにもたらされ、特に盛んに行われるようになったのが、陸上、徒歩、撃剣（剣術）、自転車、弓術、水遊び（水泳）でした。なかでも弓術においては、いわゆる遊びの弓から転じた賭弓が盛んに行われていましたが、真に「弓道」を志す一部の人は、古事、史実又は弓書を学び、精神の修養に努め、愛好者グループで弓道場を開設し、その結果相当数の高段者も生まれ、秦野弓道家の名は県内外に知られていたようです。

大正になると、スポーツの全国組織がではじめ、その下に中学校大会（マラソン、剣道、水泳等）や全国大会（駅伝、登山、陸上等）が開かれるようになりました。ここで注目すべきは、今でこそ秦野の地の利を生かしたスポーツとして愛好家たちから人気を集めている、ヤビツ峠をコースとしたサイクリングですが、当時は自転車競走として、秦野を舞台に二宮、平塚、鎌倉、藤沢方面から多数の選手が参加して盛大な競技会が行われていたという記録が残っていることは、大変興味深いものです。

そして、時代は激動の昭和に移り、相撲、籠球、馬術、軟式庭球、軟式野球等の種目が続々と競技人口を増やし始めましたが、太平洋戦争によりその活動の中断を余儀なくされることとなりました。長期にわたる戦争の末にようやく終戦を迎え、それまで中断されていたスポーツ団体の活動も日本の復興を後押しするかのよう活発化し始め、冒頭にも記した秦野市体育協会結成の礎となる、陸上競技、野球、卓球、柔道、水泳、山岳、相撲、排球、籠球、レクリエーション、弓道の11協会が組織されたのでした。

時代の変遷とともに歩んできた当協会も、来年には結成60周年を迎えます。結成から今日まで続く「秦野市民体育祭」の実施や秦野市市制施行50周年記念事業として始まりました本市最大のスポーツイベントである「はだの丹沢水無川（みなせ）マラソン大会」への協力など、スポーツの普及を目標に市民とともに多くの歴史を刻んできました。

そしてこれからも、先人たちが幾多の試練や困難を乗り越え築き上げてきたこの輝かしい財産を糧に、これまで以上にスポーツの振興・普及を心がけ、地域に親しまれ、地域に根づいた活動を続けていきたいと考えております。



【秦野市体育功労者等表彰式（2月）】



【秦野市民体育祭（5月）】



【はだの丹沢水無川マラソン大会(12月)】

【加盟団体紹介】

## 一般財団法人 神奈川県バレーボール協会

会長 高梨 昌芳

一般財団法人 神奈川県バレーボール協会は、1932年(昭和7年)神奈川県排球協会として12チームの登録で発足した。1987年(昭和62年)財団法人となり、公益財団制度改革に伴い、2013年(平成25年)10月1日より一般財団法人に移行して現在に至る。現在は、小学生から社会人・ママさんまで、1,457チームが登録している。加盟団体は、横浜・川崎・横須賀・藤沢・平塚・小田原・県央・相模原の8地域協会、社会人バレーボール連盟・高等学校体育連盟バレーボール専門部・中学校体育連盟バレーボール専門部・ママさんバレーボール連盟・大学バレーボール連盟・クラブバレーボール連盟・小学生バレーボール連盟・ビーチバレーボール連盟・ソフトバレーボール委員会の9友好団体で構成されている。

本協会では、『バレーボール競技の普及及び振興を図り、健全な児童・青少年の育成と県民の心身の発達に与し、また、豊かな人間性を涵養すること、更にバレーボール選手の育成・強化を行い、競技力向上を図ること』を目的としている。

また、次に掲げる重点課題を全組織挙げて取り組んでいる。

1. 協会組織、陣容等の内部体制の強化を図るとともに収入の拡大、経費の削減を進め、効率化を推進する。
2. 日本協会の実施する小学生・中学生を中心としたバレーボール競技人口拡大事業(ゴールドプラン)を積極的に活用し、将来の競技人口拡大を図る。
3. 協会登録制度の周知と理解促進に努め、協会登録チーム数並びにJVAメンバー制度への登録数の増加を目指す。
4. 協会と各地域協会並びに各友好団体相互の意思疎通、情報共有化に努める。
5. 協会内外に対する広報、情報公開を推進し、バレーボールファン獲得に努める。
6. 協会役員・審判員等の円滑な継承を図るために、人材育成に努める。
7. 暴力・体罰を根絶するために協会及び加盟団体の指導者に対し「指導者における倫理ガイドライン」の趣旨を充分理解・普及徹底するために全力を傾ける。
8. 協会80周年記念事業を具現化する。

【公益目的事業】

1. 県協会直轄で開催する予選会
  - ・ 日本スポーツマスターズ、国民体育大会、天皇杯皇后杯全日本選手権大会等
2. 自主大会の開催
  - ・ 阿曾杯争奪9人制大会、やまゆり杯・小田急旗争奪家庭婦人大会等
3. 各友好団体の全国大会・関東大会等の代表チーム推薦の予選会
  - ・ 関東高校男女大会、全日本高校定・通制大会、県中学校選手権、全日本小学生大会、全日本クラブカップ選手権、ビーチバレージャパン等
4. 選手強化
  - ① 代表チーム強化
  - ② ジュニア選手強化
  - ③ 調査・研究
5. 普及事業
  - ① 審判員の育成
  - ② 指導者の養成
  - ③ 競技人口の拡大
  - ④ 地域グループの育成



V選手と小中学生バレー教室

【収益事業】

1. Vリーグ開催
2. ビーチバレージャパン開催
3. 県協会80周年事業

【その他事業】

1. 各種会議の開催
2. 上部加盟団体会議の出席
3. 広報活動
4. 登録業務
5. 表彰